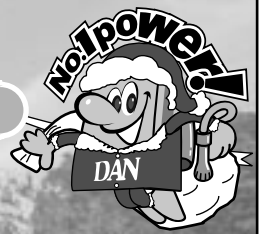


2002.12 & 2003.1

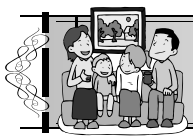


ダンネツ通信

vol.16・17合併号

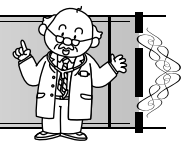


発行所：株式会社ダンネツ 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目63-636 TEL(0166)61-9151



ハウジングトピックス 第3回

断熱改修 1



新築戸建市場の縮小を背景に、住宅業界ではリフォームへのシフトを進める傾向がより鮮明になってきていますが、その中でも新築以下のコストで新築並みの快適性・省エネ性の実現を目的とした断熱改修が注目を集めつつあります。スクラップ・アンド・ビルドから優良ストックの形成・活用への転換期を迎えていることもあり、今後ますます断熱改修に対する需要は高まっていくと思われ、ビルダーも営業戦略上、ユーザーに対して有効な提案になるのではないのでしょうか。そこで今回から2回にわたって、断熱改修の目的とメリット、施工上のポイントをまとめてみます

快適性・省エネ性・耐久性を向上



軸間断熱の築23年の住宅を外断熱で改修している事例

断熱改修は、リフォームの主流となっている内外装や設備機器の更新・交換から一歩進み、住宅の断熱性・気密性を改善することによって、新築住宅と同じくらい少ないエネルギーで、冬暖かく夏涼しい住まいを実現しようというものです。特に断熱材が十分に使われてなく、防湿・気密施工もしっかり行われていない住宅では、断熱改修によって室内の快適性が大きく向上し、耐用年数も伸びるため、資源の有効利用という側面から見ても、非常に意義のあることと言えるでしょう。

これまでにも、断熱材を裏打ちした外装材に張り替えるリフォームを断熱改修と称して、「家の中が暖かくなる」などと営業しているケースもありましたが、実際に断熱改修はそれほど単純なも

のではなく、断熱材の性能を最大限引き出すための理論と施工技術が求められてきます。つまり、断熱改修を行うことは、優れた技術力を持つビルダーの証でもあるのです。

室外側に断熱付加が基本

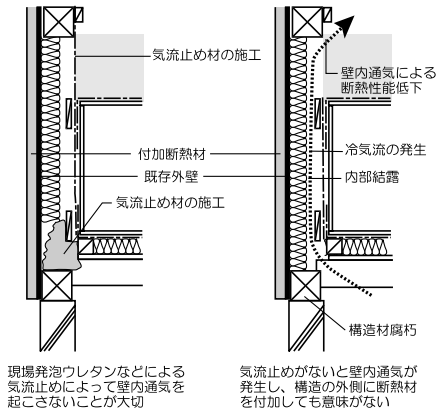
現在では断熱改修を行う場合、廃棄物処理の問題が深刻になっているため、できるだけ既存の建物を壊さない方向で取り組む必要があります。また、昔の住宅は防湿・気密層を設けていないケースが多いことを考えると、施工は既存の建物の外側に防湿・気密層と断熱層を形成する方法が基本となります。

具体的な例を挙げれば、まず床廻りは基礎断熱を原則とします。床断熱では施工が非常に困難で、居住者の生活にも影響を及ぼすことが考えられる



既存の外装材の上に押出スチレンボードとロックウールボードを付加し、樹脂製サイディングで仕上げている住宅

からです。ただし、床下からの気流が壁体内を通らないよう、1階床と外壁の取り合いは現場発泡



図A・床下からの気流を止めないと断熱材は効果を発揮しない

ウレタン等で塞ぐことが大切。いくら断熱材を室外側に付加しても、壁の中を冷たい風が通り抜けては断熱材の性能が発揮されません(図A)。

外壁は、サイディング仕上げであればそれを撤去してからポリフィルムや合板で防湿・気密層を確保して、断熱材を施工。その上から透湿・防水シートを張り、通気層を取ってから外装仕上げします。既存壁がモルタル仕上げであれば、それを防湿・気密層として利用することも可能ですが、モルタルは軒天までとなっていることが多いので、その際には軒天を壊して室外側から桁とモルタルの間に合板を張り、気密層とします。また、壁上部と天井との取り合いは1階床と外壁の取り合いと同じく発泡ウレタン等で塞ぎ、壁内に気流が発生しないようにすることがポイントです。(続く)

タネツねと☆わ〜く ~sec.b~

平塚支店

◎住所◎〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69 TEL(0463)54-6484/FAX(0463)54-2430
 ◎支店開設◎平成12年1月 ◎支店責任者◎米山俊一(営業主任) ◎従業員数◎4名
 ◎営業エリア◎神奈川県

【米山主任に聞きました】

■平塚支店として日頃から心掛けていることは？

現場での気持ち良い挨拶を一番心掛けています。大工さんなど他の業者の方々の協力があってこそ、安全な環境で良い仕事ができるわけですから、施工後のお礼の挨拶はもちろん、次回の現場でも気持ち良く迎えて頂けるよう、挨拶を大切に考えています。

■ブローイングや高断熱・高气密住宅に対する地元業者さんの反応は？

気候の良い神奈川県の場合、断熱に興味を持っている人は少ないと思っていましたが、ある調査機関によると、神奈川県でも高い意識があるということです。ブローイングを採用して頂いている工務店様の営業の方からは、他社との差別化をアピールするためにブローイングの利点をユーザーに説明したら営業がしやすくなったという話も聞いており、ユーザーの間でも高断熱・高气密に対する関心が高まっているようです。

■営業エリアにおける住宅業界の最近の動向は？

一途に高断熱・高气密の必要性を主張し続けている、あるハウスメーカーの施工棟数が年々上昇していますが、これは快適で健康的な住宅で暮らしたいというユーザーの気持ちをしっかり捉えている結果だと思えます。

■平塚支店としてのPRを一言

おかげさまで3周年を迎えることができました。まだまだ発展途上の支店ではありますが、社員一丸となって大きな目標に向かい努力していますので、今後ともよろしくお願致します。



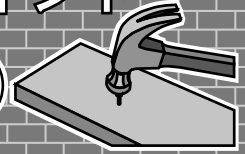
米山主任



高断熱・高気密工法のチェックポイント

第15回

冬場の室内過乾燥対策①



高断熱・高気密住宅で24時間全室暖房・計画換気を行っている、冬場にユーザーから室内が乾燥しすぎるという話をよく聞くことがあり、ビルダーサイドでも悩みのタネの一つとなっています。そこで今回から2回にわたって、室内の過乾燥対策を紹介しましょう。

Point.1 室温下げるか、湿度上げるか

過乾燥対策の考え方としては、室温を下げるか、湿度を上げるかという、2つの方向性があります。しかし、どちらか一方だけでは乾燥感を解消するほど室内環境を変えることは困難なので、両方をバランスよく行うことが重要です。

まず、室温を下げる方向は、「室温が下がれば相対湿度が上がる」という、空気と水蒸気のみか利用するもの(図A)。相対湿度が上がると乾燥感は解消されると言われています。ただ、暖房設定温度はユーザーの好みの問題でもあるので、無理強いはできません。そこで次に2つの作戦を紹介します。

Point.2 窓の断熱性能を強化

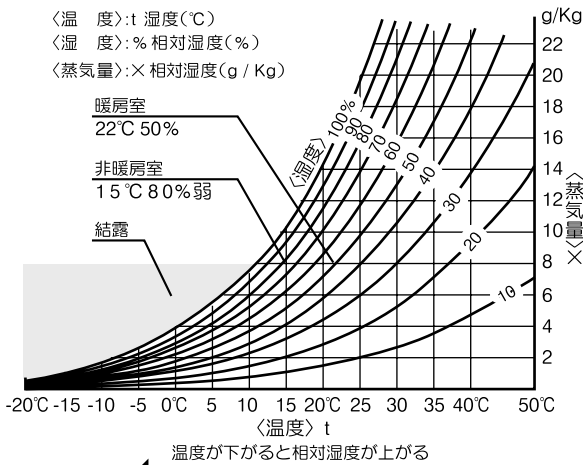
1つは暖房温度を上げずに寒さを感じない環境を作ることで、その際に一番大切なのが窓の断熱性能です。例えば室温が22℃以上と高い場合でも寒く感じる場合がありますが、それは窓面の冷気によって体感温度が低下するから。高断熱・高

気密住宅では窓の断熱性能を強化すれば冷たい部分はほとんどありません。ちなみに体感温度は室温と外壁表面温度を足して2で割った値になると言われており、初冬と真冬で室温が同じでも寒さの感じ方が違うのはこのためです(図B)。

少なくとも関東や東海、関西以南はLow-Eペアガラスの窓、北海道・東北や信越・北陸などの積雪寒冷地はさらにアルゴンガス封入の窓を使えば、暖房設定温度を今までより2、3℃下げても快適性は損なわれははずです。

Point.3 温湿度計を置く提案も

窓の断熱性能を強化しても、ユーザーが暖房設定温度を下げてくれなければ意味がありません。そこで温湿度計を置いてもらい、室温・湿度をコントロールする習慣を身に付けてもらえるよう話しておきたいものです。大抵乾燥感を感じるのは滞在時間が長いリビングと寝室なので、こまめに室温をチェックしてもらい、暖房設定温度を低めにしてもらいます。特に寝室は19℃以下にすると、寝苦しさもなく、乾燥感は大分解消します。



図A・温度と湿度の相関関係



図B・体感温度は室温と外壁表面温度を足して2で割った値になる

写真1・木製サッシなど断熱性の高い窓を使えば暖房設定温度を下げても寒さを感じない



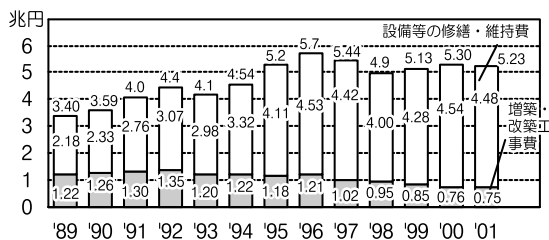


住宅業界ニュース&インフォメーション



リフォーム市場は安定傾向

(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターでは、このほど2001年までの住宅リフォームの市場規模推計をまとめた。それによると、ここ数年の市場規模は5兆～5兆4千億円(着工統計上、新設住宅に区分される増改築や家庭用耐久消費財、インテリア商品等の購入費除く)で推移しており、大幅な成長はないものの安定した市場を形成していることが明らかになった。



リフォーム住宅市場規模の推計

この推計は1989年から行われており、これまでの動きを見ると、1993年を除いて毎年順調に市場は拡大し、1996年には5兆7千億円まで増加したが、消費税率が引き上げられた1997年以降は2年連続で減少。1999年以降は5兆円台前半でほぼ横ばいとなっている。この動きは新築着工と同様の傾向で、新築住宅市場もリフォーム住宅市場も景気の低迷を背景に、ユーザーの消費意欲が低下してきていることが窺える。

ただし、この10年間の比較では新築住宅市場

が14%の減少であるのに対し、リフォーム住宅市場は4兆万円から5兆2千3百億円へと、1.3倍ほど拡大している。新築の減少をリフォームで補おうと考えるビルダーの新規参入が活発化すると予想されており、今後もリフォーム住宅市場は緩やかに成長しそうだ。

公庫融資の減少、より顕著に

住宅金融公庫が発表した平成14年度第3回個人向け融資の募集結果は、全体で1万5,698戸、前年度比31.4%減と、依然減少傾向が続いていることが明らかになった。

このうち、マイホーム新築が7,656戸(同比35.3%減)、マンション購入が5,337戸(同比20.6%減)、建売住宅購入が2,552戸(同比38.6%減)となっており、公庫から民間金融機関へのシフトが加速していることを裏付けている。

なお、現在第4回募集も行われている。締め切りは12月24日(火)で基準金利は2.45%。

◆編集後記◆

- ◆今年の冬も暖冬らしく、冬が短い予感がします。スキー場は大変そうですが…。札幌あたりは道路に雪がなく、交通もスムーズみたいですが、交通事故の増加につながるのか心配です。(佐野)
- ◆いよいよ今年もあと1ヵ月を切りました。去年の今頃は来年こそ景気が良くなるようにと思っていましたが、いっそう悪くなったような気がします…。また新しい年に期待しましょう。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netso.co.jp/>

E-mailアドレス info@dan-netso.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい!

- フローリング工事 ●気密・換気工事 ●防水工事
- ガラスウール工事 ●吹付・注入工事 ●パネル製造

■本	社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川	工場	〒071-1200 上川郡鷹栖町2962番363	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■札幌	支店	〒004-0055 札幌市厚別区厚別中央5条2丁目4-10	TEL(011)893-3588 FAX(011)893-3502
■釧路	支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■帯広	支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目72-10	TEL(0145)41-4101 FAX(0145)41-4105
■旭川	支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■北見	支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■千歳	営業所	〒066-0008 千歳市根志越2190-27	TEL(0123)26-4111 FAX(0123)26-4112
■千葉	支店	〒262-0011 千葉県千葉市花見川区三角町16番2	TEL(043)258-4065 FAX(043)258-4025
■大宮	支店	〒330-0003 埼玉県さいたま市深作2-5-9	TEL(048)684-3798 FAX(048)684-3957
■宇都宮	支店	〒321-0923 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■高崎	支店	〒370-3523 群馬県群馬郡群馬町大字福島738番地1	TEL(027)373-7199 FAX(027)373-5583
■平塚	支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸	営業所	〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3660-15	TEL(029)291-1822 FAX(029)291-1825
■株	ダンネツ信州	〒399-0033 長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016
■株	ダンネツトレーディング札幌支店	〒004-0055 札幌市厚別区厚別中央5条2丁目4-10	TEL(011)801-6811 FAX(011)893-3502